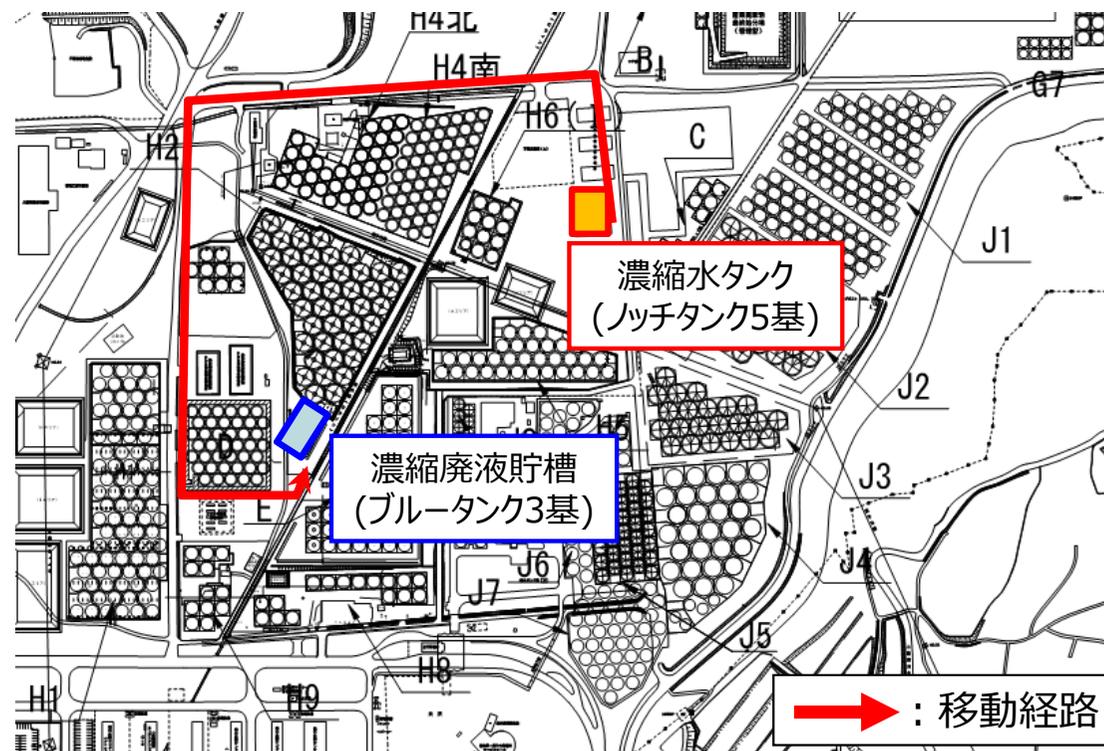
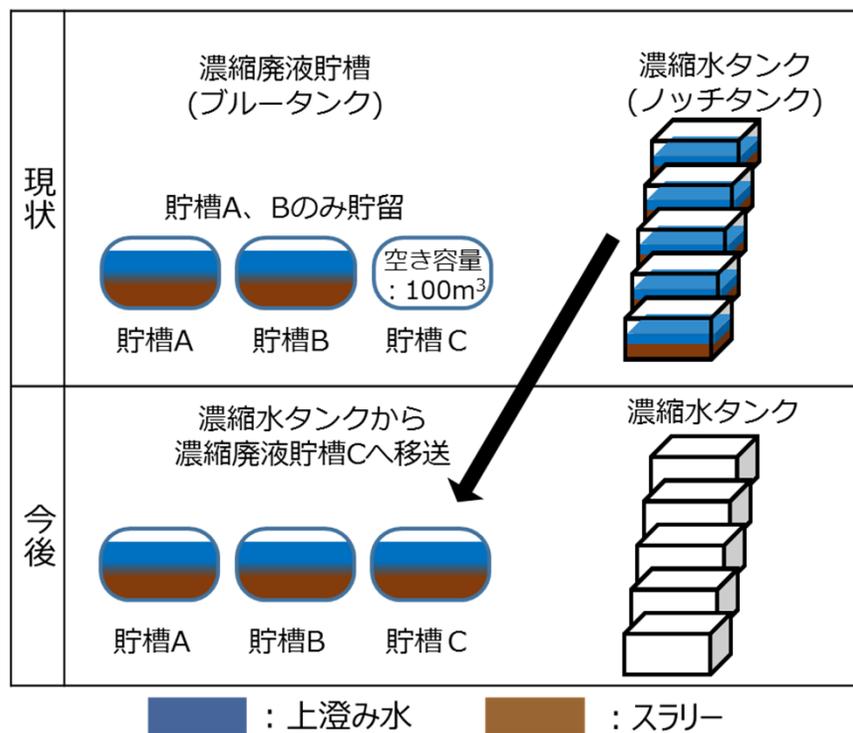
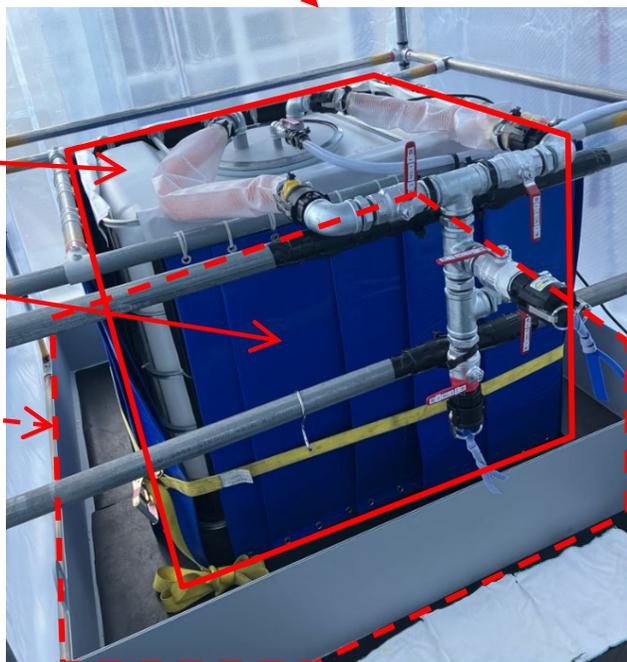
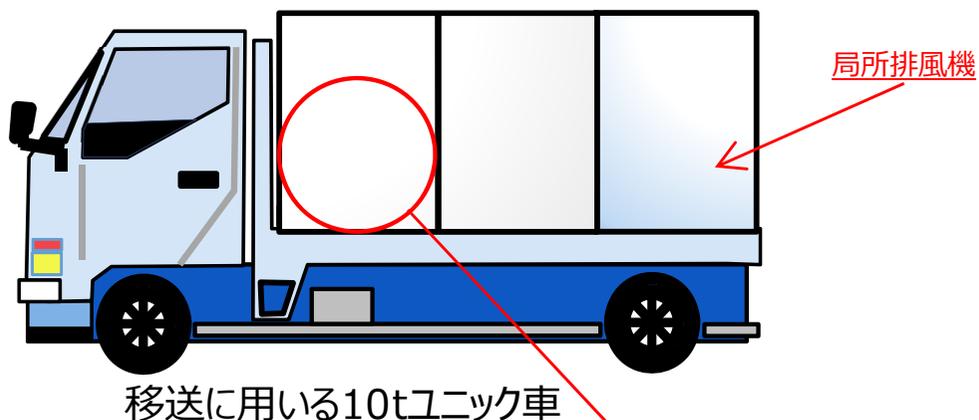


- 震災当初、汲み上げた建屋滞留水を原子炉注水として再使用するため、淡水化装置及び蒸発濃縮装置を使用していました。具体的な運用としては、蒸発濃縮装置にて、蒸留された水を原子炉注水として使用し、濃縮した水を濃縮廃液として貯留していました。(蒸発濃縮装置は2012年12月に運用停止済み)
- 貯留してきた濃縮廃液のうち、濃縮水タンク（ノッチタンク5基）に保管している濃縮廃液（約65m<sup>3</sup>、全β濃度：3.4×10<sup>8</sup>ベクレル/ℓ）について、保管中の漏えいリスクの低減を目的として、3月24日から濃縮廃液貯槽（ブルータンク1基）に移送します。
- なお、移送完了は5月末を予定しており、安全最優先で作業を実施してまいります。



# 移送方法及び安全対策

- 10tユニック車の荷台に設置した1m<sup>3</sup>タンクに濃縮廃液を入れて移送します。



10tユニック車荷台上

## 【被ばく低減対策】

- ① ノッチタンク上部への遮へいを実施。
- ② 運搬時における1m<sup>3</sup>タンク周囲への遮へいを実施。  
※ 1m<sup>3</sup>タンク表面へβ線遮へい (ゴム), γ線遮へい (鉛) を設置
- ③ 移送用ユニック車荷台上及びノッチタンクエリアを監視カメラにて遠隔監視を実施。

## 【漏えい対策】

- ① 移送ホースは全て2重管を使用。接続部は以下の対策を実施。  
※ 外れ防止措置、袋養生及び吸水材設置、監視人配置、監視カメラ配置等

## 【ダスト対策】

- ① 移送用ユニック車荷台上、ノッチタンクエリア及びブルータンクエリアにハウスを設置し、ハウス内に局所排風機を設置。
- ② ノッチタンクエリア及びブルータンクエリアにて移し替え中はハウス内外に連続ダストモニタを設置して監視。
- ③ 移送用ユニック車荷台上はダストサンプラにて監視。

## 【適正保護具の着用】

- ① ダスト内部取り込み防止用：電動ファン付マスク
- ② β線遮へい用：フェイスシールド (3mm厚)  
厚手ゴム手袋

濃縮水タンク (ノッチタンク) 【移送元】



※写真は同仕様の別タンク



タンク内部

※写真は実際の濃縮水タンク内スリ

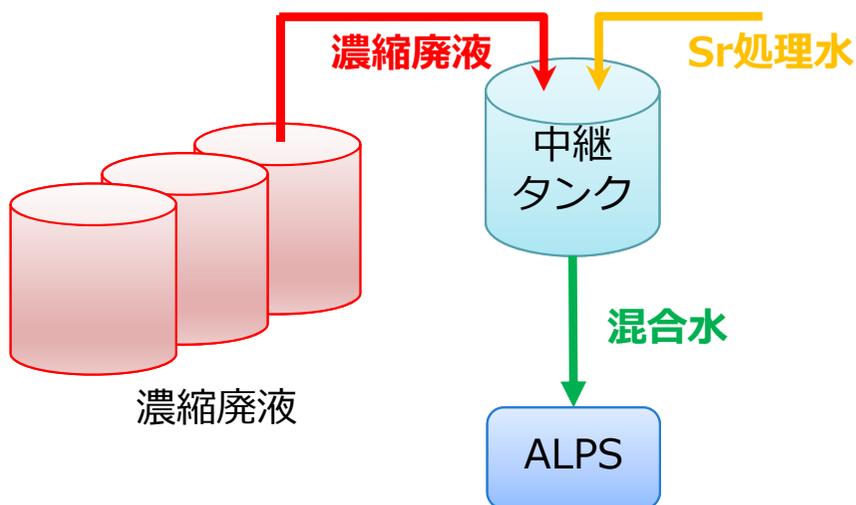
濃縮廃液貯槽 (ブルータンク) 【移送先】



# (参考) 濃縮廃液の処理方針

- 濃縮廃液上澄み水は、Sr処理水と同程度の濃度になるように調整し、処理する方針。
- 濃縮廃液スラリーは、スラリー安定化処理設備のフィルタープレスで処理する方針。

## 【上澄み水処理】



## 【スラリー処理】

### ALPSスラリー安定化処理設備概要図

